

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月31日

【評価実施概要】

事業所番号	3274000373		
法人名	医療法人 ほほえみ会		
事業所名	グループホーム ほほえみ呉安浦		
所在地 (電話番号)	呉市安浦町安登東5丁目4-5 (電話)0823-84-7225		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成21年5月29日	評価確定日	平成21年6月10日

【情報提供票より】(21年 5月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 15, 1	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費24,000円
敷金	有(130,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	15名	男性	0名	女性	15名
要介護1	10名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低	72歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	クリニックほほえみ呉。戸井内科外科医院。安登歯科クリニック。 呉市国民健康保険安浦診療所。
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「障害を持つ人と、その家族にほほえみを」という法人理念を持つ、医療法人ほほえみ会を、母体とする当ホームは、平成16年の開設以来一貫して「入居者の気持ちを尊重し優しい声かけで接し安心して安全な生活を送ってもらいます」というホームの理念を守り続け、認知症状の進行緩和、残存機能の維持、その人らしい生活の支援に向けて、ケアプランで掲げた課題に意欲的に取り組み確実にフォローしている。ゆったりと自然に恵まれた環境の中で、職員と利用者はお互いに支え合いながら、毎日の家事や作業の他に、年初に計画した各月の行事を楽しみながら、明るく笑顔の絶えない生活を送っている。又、地域の行事やサロンへの参加、ボランティアの訪問などを通じて、地域と密着した生活が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は①「運営に関する家族等意見の反映」、②「同業者との交流を通じた向上」、③「鍵をかけないケアの実践」であった。</p> <p>①については重要事項説明書に公的機関の受付窓口を明記し解決したが、②、③については当ホームの方針と現状の違いとして、検討を要する課題として残った。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 評価の意義や目的をよく理解し、全職員が参加し日頃感じている問題点について意見を提出し、解決に努め、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目 ②	<p>2ヶ月に1度、運営推進会議を開催することを目標として実施してきたが、昨年9月開催以後、現在は中断している。会議内容が報告にかたよりがちな事、会議参加予定メンバーの都合がつかない事などが原因となっているが、今後は、議題内容の充実と、参加メンバーの拡大を図り、早い時期に会議を再開されることを期待する。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問、面談の機会をとらえて、利用者の近況報告を行うとともに、意見・要望を聞き運営に反映させている。又、必要な時に電話連絡をし、月1回の手紙連絡も行っている。苦情などの受付窓口の設定、フローチャートの公開、苦情申し立て受付第三者機関を重要事項説明書に明記し、サービスの向上に向けて努めている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民の一員として、とんどや祭りなどの地域行事への参加、自治会の実施するサロン行事での交流、保育園児の訪問、中学生の体験学習などを通じて地域との交流を深めている。又、毎月発行する「ほほえみ新聞」でホームの行事を紹介したり、ほほえみグループからのお知らせや、役立つ情報を提供し地元の人々との付き合いを深めるよう努力している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「障害を持つ人と、その家族にほほえみを」という法人基本理念のもとで、ホーム独自の理念「入居者の気持ちを尊重し、優しい声かけで接し、安心して安全な生活を送ってもらいます」をつくり、いつも笑顔で地域に根ざした介護を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルーム、正面廊下への掲示や、申し送りノートへの綴り込みなどにより、常に職員は理念を共有し、毎日のケアの中で実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、とんどや祭りなどの地域行事への参加、サロンへ出向いての交流、保育園からのボランティア訪問、中学生の体験学習などを通じて、地域との交流を行っている。又、毎月発行する「ほほえみ新聞」で地域へのPRを行い地元の人々との付き合いを深めるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員がよく理解していて、勉強会や、申し送りノートへの掲示などにより、問題点の改善に取り組みサービスの質の向上に活かしている。今回の自己評価は、全職員により実施され、前回の改善課題をクリアした。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議開催を目標としていたが、最近では中断している。会議内容が単なる報告に、かたよりがちである事に加え、参加メンバーの都合がつかない事が原因となっている。メンバー構成は、民生委員、包括支援センター、家族代表、管理者、介護支援専門員、介護職員となっている。	○	会議内容の充実、開催日の早期連絡、参加メンバーの拡大(自治会や市の担当者、警察、消防の参加)などを行い、サービスの質の向上に役立つ会議となることを期待する。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険や生活福祉に関係する市の担当者とは、報告や相談の機会を多く持つようにし、アドバイスを頂きサービスの質の向上に役立っている。又、包括支援センターとの連携は充分にとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に面談し、日常生活状況を報告するようにしているが、変わった事があれば、その都度電話で連絡や相談をし、内容は記録に残すようにしている。又、毎月1回スタッフが利用者の状況を手紙に書き、写真を添えて送付するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し立ての窓口を設置し、遠慮なく申し立てができるような環境づくりをし、迅速な対応を行っている。又、前回評価時の改善要望事項「苦情申し立て受付第三者機関の契約書・重要事項説明書への記載」も完了していることを、今回の評価で確認した。		玄関の受付窓口に「ご意見箱」を設置されるよう希望する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が異動することにより、利用者へ与えるダメージを考慮し、グループ内の異動は行なっていない。新職員の採用の時は、馴染みの関係ができるまで、職員同士でフォローするようにし、利用者に不安感を持たせないような努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人基礎研修の他、法人内の研修が積極的に行われ、職員相互のレベルアップに繋げている。又、社外研修についても受講希望者には、勤務ローテーションを考慮しながら、積極的に支援している。		職員のレベルに合わせ、体系的・継続的な育成計画を確立されることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加した際に、情報交換は行っているが、地域の同業者との交流は行っていない。	○	前回の改善要望事項であり、サービスの質の向上に向けて、地域同業者との交流、勉強会で得られる効果について、引き続き検討し実行される事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを受けられるように、事前の面談により生活歴や希望を聞くとともに、体験入居を実施し、お互いに信頼と馴染みの関係作りに努め、家族と相談しながら安定した生活を支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という関係にとらわれず、利用者を人生の先輩として尊敬し、一人の人間としてしっかりと見つめながら、家事など出来る事の役割分担を行い、共に支え合う関係を築き、普段の生活の中で教えてもらったり、労わったりしながら喜怒哀楽を共にし、毎日を過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向を、日常会話や生活の中で把握し、その人のペースでゆったりと、その人らしく生活ができるように、個別ケアに努め、特に強制的・否定的な言葉使いをしないよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、関係職員とで、介護上の課題を明らかにし、より良く暮らしていく為の個別介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に掲げた、解決すべき課題(ニーズ)の進捗状況を常に把握しながら、3ヶ月毎に見直しを行うほか、状況の変化があれば、その都度関係者と話し合い、状況に即した介護計画を作成し家族の理解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に応じて、通院や一時帰宅、個人的外出など、可能な限り柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、本人の希望に応じて継続して行えるように支援するとともに、協力医との連携も充分行っている。又、緊急時の搬送先等も入居時に確認し、希望に添えるように努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームは、終身介護ではない事を入居契約時に、充分説明し、介護困難な状態に至った時は、退去していただく方針であることの納得を得ている。退去の時は家族と充分相談し、可能な限り意向に沿うよう努め、主治医と法人内の施設との連携をとり、他施設への紹介をするようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳や、プライバシーを傷つけないように気をつけて、言葉かけや対応をし、良好な信頼関係を築いている。個人情報保護についての重要性は、全職員が良く理解しており、その取扱いには充分気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理なタイムスケジュールは定めず、可能な限り利用者のペースで、ゆったりと楽しく、その人らしい生活ができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に食卓で、楽しい食事の時間を過ごしている。食前の嚥下体操で食欲を増すような工夫をしたり、食事の準備・片付けなど、利用者一人ひとりの能力に応じて分担してもらうなど、共に食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの入浴の希望を確認しながら、できるだけ個々の入浴ペースに合わせて、入浴できるように支援している。曜日、時間帯が必ずしも、個人の希望に合わないこともあるが、毎日入浴の時間を作っていることで、希望に応じて入浴回数を増やす事もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力を把握していて、料理・掃除・食器洗い・洗濯物干しなどの日常の家事や、毎日のレクリエーションや月例行事を通じて、利用者から教わったり助けてもらう場面作りをし、利用者の楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの状態に応じて、外出支援を行っており、朝夕の散歩、庭の花壇での水遣り、希望者による買い物、毎月の行事計画による遠出など、できるだけ外出の機会を多く出来るように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全上の配慮から、玄関に鍵をかける事について家族や地域の方には説明をし、理解を得て現在は施錠している。利用者の外出希望がある時は、安全に配慮しながら対応している。		鍵をかける事の利用者に与える弊害を考慮し、鍵をかけないケアに向けた取り組みを検討されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルを備えるとともに、年1回の避難訓練や救急救命訓練を実施しているが、災害発生時の地域支援体制、緊急時の地域連絡網整備が進んでいない。	○	災害発生時の地域支援体制、緊急時地域連絡網の整備など、万一の時、地域の人達の協力が得られる体制づくりを希望する。又、訓練の回数を多くし、少なくとも年2回は実施されることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量については記録に残し、利用者の状況に応じた支援を行っている。食事については、その人に合わせてカロリー計算をした福祉メニューや、食事形態を採用し、暖かく見守りながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下は明るくゆったりとしている。又、生活の中心となるリビングダイニングは十分な広さで、大きな窓により明るく解放感も充分である。部屋のコーナーには、テレビやソファを置いて、寛ぎのスペースが確保されており、室内の温度・照明・音響にも十分な配慮がされている。家庭的な雰囲気・季節感を味わえるように各所に花を飾り、毎月にちなんだ、利用者の手作りの絵を飾るなどして、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地良く、自分らしい生活が出来るように、使い慣れた家具や、生活用品が持ち込まれていて、居室には写真や作品など思い思いの飾り付けを行い、自分の部屋で自分らしく、安心して過ごせるような工夫がされている。		

NPOインタッチサービス広島

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	認知症の利用者に対し、介護職として何をすべきかを考えホームの理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルームへ提示されており、把握している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ボランティアの受け入れやサロンへ参加している。 スタッフルームに理念を掲示している。		地域の方へは、サロンや行事で来て頂いた時に、浸透を図りたい。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事では近所からボランティアに来てもらった り、サロンへ行き交流を持っている。 とんどにも参加している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	サロンやボランティアを通じて交流を図っている。 保育園からのボランティアもあり共に楽しく過ごし、中学生の体験学習も引き受けている。	○	保育園児のボランティアは特に皆様が喜んでおり、もっと来てもらえればよい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議等で、今後どのように地域に貢献するか意見を求め何案が具体的な案も出ているが実施するに至っていない。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価も行い、外部評価もスタッフルームに常に掲示されているが、浸透するに至っていない。	○	カンファレンスの場を持ち、その都度やるべき事の確認、浸透を図っていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	御家族の意見をもとに話し合い、出来ることから、取り組んでいる。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険更新時に書類の提出と訪問調査時にホームの状況を相談しアドバイスを頂いている。 当ホームでは、生保の方も入居されており生活福祉課と空き状況等で話し合う機会を持っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員を含めての勉強会はできていない、成年後見制度はすでに活用している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し、口頭にて説明し防止に努めている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の見学や、入居契約時に口頭や文書にて説明し、同意をえている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	コミュニケーションを通して、それとなく話を聞き、すぐに申し送るようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	何かあればその都度電話で連絡や相談をし、報告の内容は記録に残している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情申し立て窓口を設置し、迅速な対応を行っている。フローチャートは廊下に貼り出している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議や、なにかあればその都度報告してもらい、意見、話し合いの場を設けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	早出、日勤、遅出、夜勤の4交替で勤務時間を少しずつずらし、利用者の生活に沿った対応が出来るようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は行なっていない。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1度、担当のスタッフを決めて行事等を企画出来るようにしている。 その他の役割も与えられており、本部での研修や勉強会も自由に参加できている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	個別に地域の同業者との交流は行っていないが、研修会等に参加した際に情報交換している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員は自己評価をもとに管理者と面接をしたり、必要に応じて話し合いを行っている。管理者は何かあれば本部に相談、必要があれば理事長と面接相談出来るよう配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員個々の努力や勤務状況は把握している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接、訪問に行った際は利用者の話を傾聴し、受け止めるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接、訪問に行った際は、基本情報を聞くとともに、求めていることや質問を聞き出しよく話を聞いて受け止めるようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	基本情報や話をもとに、一番必要としていることを聞き出し、支援に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験入居を行い、馴染めるような関係作りにつとめ、家族に相談しながら工夫している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支えあう関係が築けるように努力している。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	全ての職員が出来ているわけではないが、共に支えていく関係を築いている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居時のアセスメント等により理解をして、良い関係が保てるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に来て頂いたり、電話で話をしてもらっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しがちな利用者へは、スタッフが関わり合っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	何かあればすぐに相談できるような関係作りをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いを尊重している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントやバックグラウンドをもとに把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	様子観察と出来ること出来ないこと、暮らし方シート等で現状を把握している。		

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御家族とも人間関係を築きながら情報を得て、課題が解決できるよう努め、本人や御家族の思いをプランに組み入れるよう努力しているが、本人との相談は特定の方しかできていない。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変わった事があればプランの変更をすぐに行なっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りノートに記載している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院や個人の外出など、家族が行なえない場合は、こちらで対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月1回の自治会のサロンに参加した際に、民生委員、ボランティアの方と話す機会を持ち協力して頂いたり、消防は年二回来て頂き、避難訓練や救命講習を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて報告、相談を行い対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	相談したり、見学に来て頂く機会を設けたり、話し合いの場に行くよう努め、2ヶ月に一回推進運営会議を開き話し合いをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ホームの見学、契約の際に説明し、適切な医療を支援している。緊急時の搬送先等も入居時に確認し、希望に添えるよう努めている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人内の医師が専門医なので、なにかあればすぐに相談、診療、治療を受けることができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	近くに診療所があり、毎週1回の往診もあり、相談しながらの支援を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会に伺ったり御家族と連絡をとり、現在の状況と今後の対応などについて話し合う機会を持っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	主治医と同法人内の施設と連携し、御家族の意向に沿った支援をおこなっている。ホームの性格上、医療体制に限界があり、重篤な方は他施設への紹介をさせて頂く。スタッフ全員が理解できているとは思えない。		当ホームは終身ではないことを、見学、入居時に説明をし、当ホームでの介護が困難な状況に至った時は、退居して頂く事のある旨を説明している。退居の時は御家族様との相談を密にし、ご意向にそった形を取るよう努めている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医と同法人内の施設と連携し、御家族の意向に沿った支援をおこなっている。ホームの性格上、医療体制に限界があり、重篤な方は他施設への紹介をさせて頂く。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	他施設や自宅に移るときは、関係者と面接をし、出来るだけ適切なケアの情報を伝えるよう努力し、退居後のフォローも気軽に応じる用意のあることを、関係者に伝えている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	本人の意思を尊重し、優しい声かけと、その時の状況に合った対応が来ている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	意見・希望を充分把握できるよう本人と話し、意思表示が充分出来ない方は、表情や反応、情報をもとに、本人の希望や好みをつかむようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理なタイムスケジュールは定めず、ゆっくりとした時間を持ち、入居者とのコミュニケーションを大切に、入居者のペースに合わせた生活が送れるよう、スタッフに説明している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	今まで生活していた馴染みの服を着てもらい、出かけるときは声かけをし、おしゃれをしてもらっている。髪型も本人の希望を聞いて行っているが、髪は訪問理容で整えている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼・夕食は食材の宅配サービス利用、朝は好みに添えるよう努めている。準備、後片付けは一緒におこない、食事前の嚥下体操をして、食欲を増すようこえかけをしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物、おやつ等は好みの物を、行事、誕生日会などは特別な食事を提供している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄管理表にて、排泄パターンが把握できるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の希望確認を行いながら、個々の入浴ペースの把握をし、統一した対応をしている。入浴の時間帯はホームで決めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠パターンの把握に努め、気持ちよく寝て頂くよう夜間の巡視に努め、状態により昼寝の時間を取り、体調管理をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	アセスメントやバックグラウンドをもとに、料理、掃除、食器洗い、洗濯干し、園芸等、個々にあった役割を支援し、いろいろなことを教わったり、助けてもらう場面を作り、楽しみや、気晴らしの支援が出来ている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在金銭の管理が出来る方がいない為、ホーム側で預かり、買い物に出かけた時は、スタッフが支払うようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物等の希望を聞き対応している。暖かい季節には朝、夕散歩に出たり、庭の花壇で花の水やりをして、気分転換をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行きたい所の希望を聞き、毎月の行事で検討し、年に何回か遠出をしている。個々の外出は家族の支援を受け(墓参り等) 希望に添うようにしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望されれば、掛けて頂き、自分で掛けれない方にはホームで掛けて取り次ぎ、時には家族から掛けて頂くよう、お願いしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問して頂くようにお伝えし、こちらからも様子を伝えるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束のない介護を実践している。研修で学んだことをスタッフで共有し、拘束のない介護の意識を高めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵を設置していない、出口は玄関だけで、外からは自由に入れる。中からはスタッフの鍵がなければ出られない。外出希望があるときは安全に配慮しながら対応している。家族、地域の方には説明をし、理解してもらっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	共用空間では常にスタッフが1人以上で見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態に応じた対応ができています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひやりはつとや事故報告書を記入し、原因、問題、改善についてその都度話し合いをし、記録に残している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	緊急時、事故発生時、火災時の対応はスタッフルームに掲示、他の対応はリビングに貼り、訓練は消防訓練の時に救命講習をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	訓練に参加している。(避難) 災害時の対応マニュアルもある。	○	夜間災害が起これば全員を助けるのは難しい、様々な状況を想定しマニュアルを作成しスタッフに浸透させる必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	状態変化によるリスク発生については、その都度連絡し、ひやりはつが生じた時も家族に連絡、説明をし、利用者の暮らしを尊重しながら、家族と話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	本人に体調を伺う、毎日定期でバイタル測定、申し送りで注意点を話あう、記録簿に記入し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬についての説明書を個人ファイルにおさめ、理解確認し、情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	ケースごとに排便コントロールを行い、適切な下剤の選択、自然便を促すよう飲食物を提供している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを実施している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録に残し、その時に応じた支援をおこなっている。昼、夕食は業者よりカロリー計算された福祉メニューを注文して、食事形態もその人にあったものを提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがい、消毒を徹底し、予防対応の取り決めがあり、それをリビング、廊下に貼っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器、調理用具の消毒を曜日を決め実施している。食材も新鮮な物を使用している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりは花を植えている。 ガラス貼りで明るい、日がよく入る。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	不快な音や光を出すことはない。室内の照明も時間、天候で配慮し、日差しはカーテンで調整している。家具、備品は最小限に抑え、トイレには花飾り、玄関、廊下、リビングには絵を飾り、好みの音楽、テレビをかけたり、毎月にちなんだ壁画を作り、季節感、達成感を味わえるように取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ベンチやソファ、畳の空間をもうけ、プライバシーに配慮しながら、気のあった入居者同士の交流がスムーズにいくよう工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には備え付けの家具はない、今まで本人さんが使用していた、馴染みの物、家具を持ってきて頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調設備は整っている、こまめに温度管理をし、換気も午前午後行っている。居室は入居者と話を調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全棟バリアフリーで必要に応じ、廊下、トイレ、浴槽に手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室入口に写真、必要に応じて名前を大きく貼ったり、個々に説明をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように	ベンチを設け、時には販売機で飲み物を購入し休んでもらっている。 花壇を作り、出来る方には園芸をしてもらい、出来ない方にはリビングから景色を眺めてもらっている。	○	洗濯物干しや外出、散歩の時以外でも屋外で四季のうつり変わりなどを五感で感じて過ごせるようにもっと椅子やパラソル等を設置して日陰を作って行きたい。

V サービスの成果に関する項目 A

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② ○利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② ○数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② ○利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② ○利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ ○利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② ○利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ① ○ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② ○家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ ○たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② ○少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② ○職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② ○利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② ○家族等の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	認知症の利用者に対し、介護職として何をすべきかを考えホームの理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルーム、申し送りノートへ提示されており、把握している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ボランティアの受け入れやサロン参加などを手紙を通じて月に1度、報告している。 スタッフルームに理念を掲示している。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	行事では近所からボランティアに来てもらったり、サロンへ行き交流を持っている。 天気の良い日は散歩へ行き挨拶をしている。 とんどにも参加している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	サロンやボランティアを通じて交流を図っている。 保育園からのボランティアもあり共に楽しく過ごし、中学生の体験学習も引き受けている。	○	保育園児のボランティアは特に皆様が喜んでおり、もっと来てもらえればよい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議等で、今後どのように地域に貢献するか意見を求め何案か具体的な案も出ているが実施するに至っていない。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価も行ない、外部評価も申し送りノートに常に掲示されているので、改善すべき所は素早く対応している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	御家族の意見をもとに話し合い、出来ることから、取り組んでいる。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険更新時に書類の提出と訪問調査時にホームの状況を相談しアドバイスを受けている。 当ホームでは、生保の方も入居されており生活福祉課と空き状況等で話し合う機会を持っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員を含めての勉強会はできていない、成年後見制度はすでに活用できている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に申し送りノートに掲示されており十分に理解し、日々注意して行動している。 研修へも参加している。		日頃の業務に慣れ、利用者に苦痛を与える様な言葉掛けなど、言葉の暴力等を決して行わない様に、いつも平常心を保ち業務についている。
4 理念を実践するための体制				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の見学や、入居契約時に口頭や文書にて説明し、同意をえている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	コミュニケーションを通して、それとなく話を聞き、すぐに申し送るようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	スタッフが月に1度、利用者の様子を写真付きの手紙を書いている。 変わった事があればすぐに電話をして知らせるようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時にはスタッフがさりげなく利用者の状態を伝え、家族が話しやすい雰囲気になるように心掛けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	何かあれば申し送りノートに記すか、管理者に相談するようにしている。 他スタッフとも意見交換するようにしている。	○	カンファレンスの場を持つとより良いと思う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	早出、日勤、遅出、夜勤の4交替で勤務時間を少しずつずらし、利用者の生活に沿った対応が出来るようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は行なっていない。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	-----	---------------------------------	------------------------	---------------------------------

5 人材の育成と支援

19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1度、担当のスタッフを決めて行事等を企画出来るようにしている。 その他の役割も与えられており、本部での研修や勉強会も自由に参加できている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	個別に地域の同業者との交流は行っていないが、研修会等に参加した際に情報交換している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	いつでも相談できる環境にある。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	取組みたい事に自由に活動できる。 何事にもチャレンジ出来る環境にある。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	自ら訴える事の出来る方は、しっかり話を聞き問題点を見つける。難しい方には、しっかりと観察し日常と違う所があれば、すぐにこちらから対応するように努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接、訪問に行った際は、基本情報を聞くと共に、求めていることや質問を聞き出しよく話を聞いて受け止めるようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	基本情報や話をもとに、一番必要としていることを聞き出し、支援に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験入居を行い、馴染めるような関係作りにつとめ、家族に相談しながら工夫している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護上であること意識した上で、相手を一人の人間として、しっかりと見つめていく。また時には、孫の様に接し色々な事を利用者の方から教えてもらっている。		家事など役割を振り分け出来る事はしてもらおう、何が出来るか出来ないかを見極め、個人の生活歴からも学ぶ事が多い。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた時に生活状況、身体状況を話すように心掛けている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族の方から、昔好きだった物や、どのように過ごされてきたのか、教えてもらっている。それを参考にケアに取り組んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人には積極的に面会に来てもらっている。サロンやカラオケを続けてもらっている。縁のある場所への外出を行なっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	コミュニケーション能力を把握し孤立しないようにスタッフが間に入り関わりを持てるように努めている。トラブルが起きないように事前にしっかり観察しながら防ぐようにしている。		席の工夫、レクリエーションをして支え合いの機会を作っている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組ん でいることも含 む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	何かあればすぐに相談できるような関係作りをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの性格や思いを感じとり個別ケアに努めている。 強制的な言葉づかいに注意している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人ファイルに経過等を掲示し、いつでも見れるようにしている。 また昔話を通じて知る機会がたくさんある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人記録に変化があればすぐに記入し、全てのスタッフが情報を分け合っている。 また申し送りノートも活用している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	それに基づいたケアプランを作成しケアしている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変わった事があればプランの変更をすぐに行なっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録しケアプランに活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院や個人の外出など、家族が行なえない場合は、こちらで対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月1回の自治会のサロンに参加した際に、民生委員、ボランティアの方と話す機会を持ち協力して頂いたり、消防は年二回来て頂き、避難訓練や救命講習を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて報告、相談を行い対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	相談したり、見学に来て頂く機会を設けたり、話し合いの場に行くよう努め、2ヶ月に一回推進運営会議を開き話し合いをしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	往診と必要時の受診の支援を行なっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	本部へ連絡し、いつでも受診できる様にしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	2週間に1度、かかりつけの医師による往診がある。 何かあれば電話をして、相談し対応している。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会に伺ったり御家族と連絡をとり、現在の状況と今後の対応などについて話し合う機会を持っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	主治医と同法人内の施設と連携し、御家族の意向に沿った支援をおこなっている。ホームの性格上、医療体制に限界があり、重篤な方は他施設への紹介をさせて頂く。スタッフ全員が理解できているとは思えない。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医と同法人内の施設と連携し、御家族の意向に沿った支援をおこなっている。ホームの性格上、医療体制に限界があり、重篤な方は他施設への紹介をさせて頂く。スタッフ全員が理解できているとは思えない。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	アセスメントの内容を申し送りファイルに常備しており、早いうちから情報を得られるようにしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	人生の先輩として、自分が言われて嫌な言葉かけはしないように意識し、尊重するように努めている。 記録に他者のイニシャルなどを記入しない。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	簡素で分かりやすく伝え、混乱させないように注意している。 選択肢を、あげて決定しやすいようにしている。		利用者の目線に立ち、あせらずゆっくり会話し、その人らしい言葉や意見がでるように日頃の会話、対応に気を配っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	何かしたい事があるか、希望を聞いたりホームになければ購入し、その人らしい一日を過ごせるよう支援している。 その人の得意な事を見つけプライドを持ってもらう努力をする。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自分の好きな洋服を選んで着てもらっている。 化粧の出来る方はホームでも毎日してもらっている。 難しい方はスタッフが整髪などしている。		2カ月ごとの訪問理容と行きつけの美容院がある方への支援を行なっている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	得意な事は活かしてもらい、共に調理を楽しんでいる。 また片付けは一人ひとり役割を持って行なってもらっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	自己管理が可能な方は、居室で好きな時に楽しんでもらっている。 おやつには好きな物を提供し、月に一度は外食に行く機会を設けている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人の排泄ケアを実施している。 変わった事があれば、すぐに対応し失敗する事がないよう支援している。 陰部の清潔に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望があれば臨機応変に対応している。 入浴表を作り活用している。		曜日、時間帯を個人の希望に合わせる事は出来ないが、毎日入浴の時間を作っている ので入浴回数に、こだわらず希望者には入浴してもらっている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	特に決める事なく自由に過ごしてもらっている。 自然な睡眠を促すよう日中は軽作業などして活動してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意、不得意を理解し長所を活かせるケアをするよう心掛けている。 好きな事は続けて好きな時にしてもらっている。		掃除の分担を決めたり各個人に合った役割の提供を行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理可能な方のみ行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や花の手入れ。 買い物などに出かけられるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	自由にしてもらっている。		外出行事の企画を立て行っている。 他は家族の面会時に外出してもらっている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由にしてもらっている。		電話や手紙のやり取りは自由である。取り次ぎや投函を代理で行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自由にしてもらっている。		面会者が帰る際には、また来て頂けるよう声を掛けている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修などがあり申し送りノートに掲示し、いつでも把握できるようにしている。		入居者にはホーム内を自由に行動してもらっている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵のある事で安心感を持っている家族もおり、入居者も理解している。 (鍵をかけないケアは行っていない)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入室すると常に所在、人数の確認をするようにしている。 常に視野内に入居者の様子が分かる場所にスタッフが居るようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	きちんと説明し納得のゆく方向に強制する事なく預かるか見守りをして注意をしている。		各個人の日常から出来る、出来ないの見極めを行っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個人別のケア方法を作成している。		入居者の日々の言動から予測されるリスクはスタッフと情報を共有し目配り、気配りし、常に注意している。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	スタッフルームに常に掲示されており確認するようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	訓練に参加している。(避難) 災害時の対応マニュアルもある。	○	夜間災害が起これば全員を助けるのは難しい、様々な状況を想定しマニュアルを作成しスタッフに浸透させることが必要である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居時に説明すると共に面会に来られた際など現在の状態について都度説明し理解をもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	記録をつけたり、申し送りをしている。 一人ひとりをよく観察する。 異変があれば観察を強化し早めの対応を行っている。		毎朝のバイタルチェックに目を通す。 入浴介助時の皮膚疾患の有無。 トイレ介助時の便の状態、尿の色、出具合い 入所者の行動、顔色など常に気に止めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに掲示し、いつでも確認できるようにしている。 概ね、把握している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分を1,000~2,000cc 摂取してもらっている。 便秘をしないよう排便チェックをしている。 必要ならば服薬を使って取り組んでいる。 昼前に体操、レク、etc		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの個別ケアを実施している。		口腔ケアをする意味・目的を折にふれ、入居者に説明している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	常に声掛け、本人に自覚してもらえよう貼り紙などしている。(摂取量の少ない方) 食事・水分摂取表を作り、記録に残し気を付けるようにしている。 月に一度の体重測定		個人の状態に合わせ都度、食札を作り活用している。食事の際、見守り、観察を行い日々の嚥下、咀嚼、病状などを配慮し調理をしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	申し送りファイルに記載している。		手洗い、うがいの徹底 便座、ドアノブの消毒の徹底を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	消毒に力を入れている。 決まった曜日に消毒する物を決めており、日程表を貼っている。		手洗い、うがいの徹底 入居者にも都度、声掛けをしている。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりは花を植えて、ホーム内は花や絵などを飾って明るい雰囲気になっている。 ガラス貼りで明るい、日がよく入る。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や壁画を作成し、大きく見える場所へカレンダーを置いている。 ベンチもたくさん置いて和めるようにしている 利用者の作品などを居室に飾っている。		家庭的な雰囲気になるよう花や飾りを季節ごとに変えて工夫している。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	目的別に空間スペースを設けていて自由に過ごしてもらっている。		共用空間であるリビングで一日のほとんどを入居者が過ごされる為、共用の場、故の疎外感を感じる事のないよう個々の入居者に気を配っている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前よく使っていた物を持って来てもらっている。 ホームでの行事を行った際の思い出の品を貼っている。	○	若い頃の写真なども、もっと飾れたらと思う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計、湿度計をリビングに置いている。 加湿器も設置している。(冬場)		入居者に寒暖確認の声掛けは、日に何度も行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを設置、室内、全室バリアフリーで転倒防止。		テーブル、椅子、浴槽は改善する必要があるが、出来ないのが現状である。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	今まで出来ていなかった事も、この日は出来たと細かく記録し、利用者の変化を見逃さないようにしている。		居室やトイレ等、分かりやすく貼り紙をしている。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベンチを設け、時には販売機で飲み物を購入し休んでもらっている。 花壇を作り、出来る方には園芸をしてもらい、出来ない方にはリビングから景色を眺めてもらっている。	○	洗濯物干しや外出、散歩の時以外でも屋外で四季のうつり変わりなどを五感で感じて過ごせるようにもっと椅子やパラソル等を設置して日陰を作って行きたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	--------	---------------------------------	-------------------------	----------------------------------

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② ○利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ○毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ ○利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 〇家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ 〇たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 〇少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 〇職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 〇利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① 〇ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目